



会員近況

ポストコンサル
ティンクグループ 織畑 基一

7月号の許斐氏の近況を読んで筆をとりました。小生もOR関係の大学院を出てから10年近く経営コンサルタントをやっていますが、同業のせいにかまったく同じことを感じています。

ORには手法や理論の開発という側面と現実社会への適用という、いわばシーズとニーズの2側面があると思いますが、そのバランスがシーズ面に片寄りすぎているのではないのでしょうか。もしかするとこれは本誌を通してだけの印象なので間違いかもしれませんが。そこで他分野との比較による印象ですが、たとえば時々数理、物理、生物という、より純粋な分野の雑誌にも目を通しますが専門的な内容はともかく、いろいろ視点・発想という面で啓発されることが多々あります。また最近の経営学分野の発展にも目を見はるものがあると思ってます。そこで感じるのは、OR分野には発想的なものが足りないのでは、ということです。今はやりの言葉で言えば、左脳

のみ強くて、右脳的なものが足りないのでは、ということです。不勉強なくせに、なまいきなことを申し上げたかもしれませんが、ORの発展を期待して敢えて投稿しました。

東京都労働経済局 木下 望

大学では経済学部に着籍を置き、社会科学方法論を学んではいたものの、今もって数学はすこぶる苦手です。民間企業では在庫管理問題にぶつかり、ORの重要性を実感し、数理統計のテキストとポケコン片手に勉強に取り組みました。総理府統計研修所の研修もきっかけで、数理科学への興味はますます深まっています。

ところで、法学の分野にもジュリメトリクスなる“サイエンス”もあるようですが、社会科学の各分野をOR的方法に解読してみれば、似たり寄ったりであることはわかりました。判決文が記号と方程式で打ち出されるような時代が到来した時、社会システムもどのように変化していくのか興味深く思います。

大学を出てから4年余りの現在、趣味として、地域計量経済の初歩的作業に取り組んでいます。いわばセカンド・ベストを尽くしてORを仕事に生かしていきたい思います。

編集後記▶いよいよ秋です。今月26日、27日には工学院大学で秋の研究発表会が開かれます。どうか皆さま奮ってご参加ください。▶今や社会は高度情報化の波を受けて大きく変わろうとしています。しかし一方では旧態依然とした伝統的な体制が新しい波とぶつかり合っ、消化不良を起したりあるいは全く受けつけなかったりで様々な波紋を投げかけています。ORは実践の学問と言

われています。このような複雑な社会にも何とか創意工夫によって対応していかなければなりません。編集委員会の企画のもとに、今月終りの研究発表会最終日(27日)夕方、当会場におきまして「これからのOR」という座談会を開催予定にしています。持論、ご意見などのある方この機会に何か一言いいたい方はぜひ飛び入りでご参加くださいますよう期待しています。(J)

オペレーションズ・リサーチ

昭和58年10月号 第28巻(新シリーズ第8巻) 10号 通巻274号

代表者 横山 勝義

発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会
東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル
(電話 03-815-3351~2) 〒113

編集人 牧野 都治

発売所 株式会社 日科技連出版社

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 〒151

本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ

定価 850円(郵送料含) 年間予約購読料 9600円(郵送料含)

本誌への広告お申し込みは明報社(571-2548)、日経弘報社(563-2241)へ